

第 205 期定時株主総会 質疑応答要旨

2025 年 6 月 21 日（土）に開催しました当行第 205 期定時株主総会において頂戴しました主なご質問および当行の回答要旨を以下のとおり紹介いたします。

定時株主総会におけるご質問

1	
質問	少子高齢化が進む中で、福井県内に居住している預金者が亡くなると、相続の関係でメガバンク、ネット銀行等に預金が出流する懸念がある。この相続に伴う預金流出への対策についてお聞きたい。
回答	地方における少子高齢化は社会課題であると認識しております。相続に伴う預金流出への対策のひとつとして、相続された個人のお客さま向けの定期預金を商品化いたしました。初回満期日までの期間 6 ヶ月、期間 1 年の定期預金で金利上乘せを行う商品としております。
2	
質問	少子高齢化が進み、商売を止める事業主が増えシャッターを下ろすことにより町が廃れていくなど事業承継が課題となっている。こういった課題に対する地域活性化への取り組み、対策についてお聞きたい。
回答	人口減少・事業所減少により、消費マーケットが縮小すること、また労働人口の減少により生産・サービス提供が低下することが懸念されます。 事業承継については、福井銀行グループとして組織を挙げて取り組んでおり、一例として M & A やグループ会社で一時的に出資して経営をサポートする対応なども実施しております。また、商工会議所、産業支援センターとも連携しながら事業承継に取り組んでおります。
3	
質問	今回の決算の利益水準には満足しており、ROE 5.2% は近隣他行と比べても遜色ない水準と評価している。一方で、今年度の ROE を 3.3% と予想しているが、この水準は適切なのだろうか。また、株価を見ると、株式市場での評価は十分でなく、株価に対しての今後の見通しについてお聞きたい。
回答	今回の決算は ROE 5.2% と、地銀平均と比較しても収益力が高まってきたと感じております。この収益水準をどう株価に結びつけていくかが重要であると認識しております。株主還元については、配当増加、自己株取得といったことも手法として考えられますが、銀行は金融仲介機能を維持するため一定の自己資本比率が必要であります。 当行の現段階での自己資本比率は地銀平均と比べてまだ低い水準であり、利益水準以上の配当政策は取りにくい点をご理解をいただきたいと存じます。 株価については、経営統合の狙いや効果をしっかり株主さまに伝え、ご理解いただくことも重要であり、株主さまの期待に添えるよう努力していきたいと考えております。 1 年 1 年というよりも中長期的に地域を豊かにし、収益基盤への投資も行いながら中長期的に成長していきたいと考えており、株主さまにも応援いただきたくお願い申し上げます。2026 年

	3 月期について、本業の収益は引き続き増加を予想しておりますが、合併に伴う統合費用が 3 6 億円発生するため、控えめな利益予想としており、R O E も低下を予想しております。 株価は市況、金融政策、政策金利等で大きく変わる側面もあり、株価水準に具体的な目標は設定しておりませんが、利益水準を上げていくこと、株主さまに当行の考えを理解いただくことで、少しずつ上げていきたいと考えており、中長期的な支援をお願い申し上げます。
--	--

4	
質問	東京証券取引所から P B R 1 倍を達成するようにとの要請に対して、福井銀行の P B R は足元で 0 . 3 倍程度となっている。会社として 1 倍を実現する意思はあるか。
回答	P B R を 1 倍にしたいという意思はありますが、ただ、一足飛びにいくとは思っておらず、まず収益力を高め収益を伴った配当を実施し、当行が考えていることを株主さまにご理解いただくことで、1 倍に近づけていきたいと考えております。 まずは、P B R が地銀平均 0 . 5 倍並みとなっていくよう努力してまいります。

5	
質問	社外取締役の候補者について期待するものは何か。またその期待は果たせるのか。
回答	社外取締役には、それぞれ専門的知見、独立した立場からのアドバイスを期待しており、実際に取締役会等の会議では活発な意見をいただいております。 今回 4 名の社外取締役候補者は、企業経営、法律、地域経済・会計、国際金融の各分野の専門家で、女性 2 名が含まれております。 銀行内の人間だけでは偏った意思決定になってしまうため、多様な見識を持った社外取締役から、銀行経営に対して意見をいただき、バランスよく経営の意思決定に取り入れていきたいと存じます。 当行では、実際に社外取締役から多く発言をいただき、十分に機能していると考えております。緊張感をもった企業経営において、重要な役割を担っていただいております。

6	
質問	福邦銀行との合併を控えているが、地銀再編の流れの中で、他の地銀との業務提携、経営統合についてどう考えているか。
回答	当行としては、来年の福邦銀行との合併をしっかりと成功させ、株主さま、地域の皆さまに満足いただく成果を出していくことを優先してまいります。現在、今後について考えていることはありませんが、今後、決定したことがあればリリースいたします。

7	
質問	統合される側の福邦銀行の職員が居づらさ・やりづらさを感じるのではないかと。優秀な人ほど早く辞めることもあり、社風を合わせるなどして福邦銀行職員の離職防止に取り組んでいただきたい。
回答	福邦銀行職員の離職防止は、グループ化してから一番注意を払ってまいりました。 グループ内では、「人心融和」という言葉を使って両行職員の融和を進めており、実際に福邦銀行職員の離職は少なくなっております。大事な職員であり、合併してからも同じ銀行の職員として

	大事にしていまいます。
--	-------------

8	
質問	来年の福邦銀行との合併に向けたシステム統合に関して、システムトラブル、システムダウンへの対策はしているのか。
回答	2026年5月のシステム統合に向け、今年7月から本格的な試験を開始する予定であり、福井銀行・福邦銀行のシステム担当者が、細心の注意を払い無事にシステム統合が果たせますよう準備を進めております。 今年後半からは営業店も含めシステム統合の試験を行うなど、万全の体制で5月7日に新しい銀行をご利用いただけるよう対応しております。

9	
質問	良好に合併を進めるために、政府から補助金がでていると聞いたが、詳しく教えてほしい。
回答	合併には多大なコストがかかることから、国から合併交付金を受けることになっております。総額で122億円の統合費用が発生する一方、国から受ける合併交付金は27億円のため、差し引きで100億円の費用がかかってまいります。 2026年3月期決算は、統合費用のうちの36億円見込むことから厳しい予想としております。 一方で、一時的な統合費用を除いた本業の収益力は高まっており、やるべきことをしっかりとやっていきます。

10	
質問	生成AIについてお聞きたい。事業報告の中で、コンサルティング業務に力を入れていると説明があったが、今後コンサルティング業務は生成AIに代替されていくと考えてられている。福井銀行の取締役は、生成AIの活用状況、技術レベルについて確認・把握しているのか。
回答	生成AIについて、2年程前から実証実験を進め今年に入って全店で利用を開始しております。今のところ行員の30%以上が使用しており、地銀平均の20%台は上回っております。 今後さらに、生産性向上を図ることが必要であり、生成AIが重要なツールになってくると考ええております。生成AIの機能アップ、取り組みについて取締役会としても挑戦してまいります。

11	
質問	福井銀行は地方銀行であり、福井の株主が多く、また取引先でもあり応援してあげたいと思う株主が多いはず。今回の株主総会はいい話がたくさんあるのに株価はどうか。県外へもっとアピールするなどすれば福井銀行の株を買いたい人が増えるのではないかと。経営陣は株価に満足しているのか。
回答	株価について、上げていきたいと強く思っております。その要因として情報発信がこれまでは弱かったと考えております。 機関投資家と対話を強化するなど努めてまいりましたが、特に県外や世界から、福井を見ていただく、知っていただくための発信はもっと高めていかなければならないと感じております。

	今回、増配させていただいておりますが、将来的に株価が上がっていくと確信をもっていただけるような発信、対話をしていきたいと考えております。
--	--

以 上